

「旭が丘」の誕生（市制施行50周年特集④）

多摩平の西、日野台から西に開けた平山台は、かつての平山村の一部が浅川を越えて開けた地域に続く台地である。江戸時代には「中組」と「下和田」の地名が見られる。「中組」については「浅川の向ひの方大和田村堺にあり」と記し、「下和田」については「これも浅川の向かひの方に、同じつづきにあり」と書いている。（『新編武蔵風土記稿』）

この平山台は、昭和前半期には「農林山地が大部分で競馬場の敷地と住宅地が散在する程度（「しゅん功記念碑」）であった。昭和9年（1934）に八王子競馬場が建設されるまでは、本格的な開発は見られなかった。

この平山台が注目されるようになったのは、昭和30年代半ば、多摩平団地の開発の頃のことである。この時点で開発対象地域は、日野市大字日野・豊田・平山・南平・高幡・栗ノ須・西長沼の各一部を含めた地籍（「しゅん功記念碑」）であったという。

戦後、経済界は高度成長へと向かい、日野町も昭和25年から35年までに人口が2倍近く増加していった。この間、昭和31年（1956）4月26日、「首都圏整備法」が公布された。この法律は、首都圏を既成市街地、近郊地帯、市街地開発区域に区分して、宅地、道路、交通施設、公園、緑地、上下水道、汚物処理施設、河川、水路、海岸、住宅等の建築物、学校等の教育施設の整備計画の作成、事業の推進をはかるものであった。さらに「工業都市又は住居都市として発展させることを適当とする既成市街地の周辺地域内の区域を市街地開発区域として指定することができる」とし、小中学校の建設を必要とする公共団体に対する助成についても、小学校は建設経費の三分の一以内、中学校は二分の一以内と決めていた。

昭和33年（1958）2月1日、日野町は七生村と合併し、新しい日野町が成立し、八王子や立川とは異なった独自の町の発展への意気が高まっていた。日野町は、首都圏整備法の公布を好機として市街地開発区域の指定に積極的に取り組んでいき、34年5月7日にその指定に漕ぎ着け、国・都から財政をはじめ行政上の援助を受けるルートを開発した。

指定直後の6月6日には、「日野町工場誘致奨励に関する条例」と「日野町工場育成奨励に関する条例」を公布、即日施行した。またこれに伴って平山台の開発が計画され、翌35年6月13日に、建設省告示一〇一五号によって、区画整理区域の指定を受けることになった。



平山工業団地（左下）と八王子競馬場跡（昭和38年頃）

平山台の区画整理事業は、施行面積 128 ㌥で、このうち約 59 ㌥(46%)を工業用地、約 39 ㌥(30%)を住宅用地、その他を道路・公園・学校の公共用地とするものである。工業用地は、すでに 35 年に帝人東京研究センターが開発され、東芝タイプライター、千代田自動車等の進出が続いていた。豊田駅から 1500 ㌥八王子寄り北側に、帝人の建物が車窓から見える。すでに工業用地が造成されていたため、平山台の地区中央から西側一帯を工業用地に当て、他を住宅地として利用することにした。

事業は、日野町が施行者となり、業務の一部を新都市建設公社に委託という形で進められた。事業費は、当初 10 億円程度を予定していたが、物価の上昇などにより経費が増加し、最終的には約 16 億 1400 万円を投じ、昭和 48 年(1973)9月に完成した。事業はそれまでの土地の区画や利用を一変させ、時代に沿った新天地を実現した。

公共用地は、幹線道路 4700 ㌥、区画道路 2 万 4300 ㌥を建設し、すべて排水施設を設け、開発前の 4 倍以上とした。この地域の排水については、区画整理と同時に施工された「平山台都市下水路事業」がある。平山台地区の雨水を浅川へ放流するための工事で、平山台地区の東端から中央線路下を横断して浅川まで約 740 ㌥を、直径 2.1 ㌥～2.4 ㌥の暗渠を埋設し、排水を可能とした。

公園も 5 か所が新設され、1 号公園(旭が丘中央公園)は市民の憩いの場として利用され、他の 4 公園は地区内の幼児・児童のための公園とした。

住宅は個人住宅のほか、市営住宅が建設された。学校は、市立第四中学校が建設され、都立工科短期大学(現首都大学東京日野キャンパス)が開校した。

工事が着工されてからも、それまでの居住者や畑・山林所有者等の換地問題を解決しなければならない重要な課題があった。昭和 40 年にはいり換地計画の作成が開始され、41 年 2 月に仮換地の指定を開始、46 年に仮換地の指定完了、最終的に 48 年 7 月 14 日に換地処分公告があつて完了した。その後 7 月 15 日に、平山台と呼ばれた地域が「旭が丘」と命名され、日野市民の新しい活動舞台となって登場したのである。

現在旭が丘中央公園に、日野市が建立した高さ 240 ㌥の「しゅん功記念碑」がある。碑の裏面には「旭が丘」誕生の経緯が克明に刻まれており、その末文に「この事業は約千人に及ぶ権利者の協力と互譲の精神」があつたからこそ完成したと記している。



(日野市歴史資料整理編集委員会委員 沼謙吉)

(参考文献)

『日野市史通史編四 近代(二)現代』

(平成 10 年 3 月)

『しゅん功記念誌』(昭和 48 年 9 月)

『大工場がやってきた』

(日野市ふるさと博物館図録、平成 15 年 9 月)

旭が丘中央公園にある「しゅん功記念碑」

(昭和 48 年 9 月建立)

【広報掲載版 1 段 3 行目 中込→中組、下大和田→下和田に訂正させていただきます。】